

平成29年度 学校自己評価、第三者及び学校関係者評価シート

| | |
|---------------|--|
| 目指す学校像 | 建学の精神「選択」「専修」を踏まえ、 1. 自己肯定感を育み、他者を認めることができる人間を育てる。 2. 問題解決に協働して取り組み、他者に貢献できる人を育てる。 3. 夢を持ち、そのための地道な努力を継続できる人を育てる。 |
|---------------|--|

| | |
|-------------|---|
| 重点目標 | 1. 入学者の定数確保と埼玉工業大学への内部進学者の増加 2. 教育指導力の充実と向上 3. 浄土宗門関係学校としての教育推進 4. 危機管理体制の充実と再構築 |
|-------------|---|

| | | |
|------------|---|-------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成(8割以上) |
| | B | 概ね達成(6割以上) |
| | C | 変化の兆し(4割以上) |
| | D | 不十分(4割未満) |

| | |
|------------|--|
| 出席者 | 第三者委員 1名(委員数 3名) 学校関係者 9名(委員数12名) 教職員 6名(委員数15名) |
|------------|--|

| 学校自己評価 | | | | 第三者及び学校関係者評価 | | | | |
|--------|---|--|---|---|--|-----|--|--|
| 年度目標 | | | | 実施日 平成30年2月3日 | | | | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | 第三者及び学校関係者からの意見・要望・評価等 |
| 1 | ・県北部の中学校の生徒数は減少傾向にある。定員の安定した確保のためには、より質の高い教育を行うなどの特色化を進め他校との違いを鮮明に打ち出すことが必要である。 ・埼玉工業大学は、充実した施設・研究、そして計画的な広報活動により、志願者増に努めている。本校同様、定員の安定した確保のためには、本校からの内部進学者の増加に協力することが重要である。 | ・本年度進めている本校の教育改革に対する受験生・その保護者及び地域からの評価。 ・入学者数は360名(学則定員の90%)以上を維持し、内部進学者数は45名(埼玉工業大学入学定員の9%)以上、かつ文系学科入学者数の増加。 | ・近隣の公立高校及び競合する私立高校とは異なる特徴ある教育を実践する。 ・中学生やその保護者にも有意義な情報を積極的に発信する。 ・高大連携委員会の提言を実現させるために「埼玉工業大学と正智深谷高校との高大連携実施委員会」が積極的に活動するように努める。 | ・補習や駿台サテネットの実施により、本校の教育で受験対応体制を整えているか。 ・私学として建学の精神を人間形成の柱とした教育カリキュラムを編成して実施しているか。 ・ホームページにより、最新かつ興味を惹く情報の提供を継続して行っているか。 ・新1年生予定者385名、埼玉工業大学への内部進学者が45名を越えたか。 ・高校教育改革に対応できる特色化が具体的に進んでいるか。 | ・0.7.8限及び長期休業中に実施する進学講習及び補習とも予定通り実施した。また、本年度より導入した駿台サテネットは、25名60冊の利用があった。 ・特進Sコース、TACをはじめ昨年度並みの応募状況である。課題も若干残るが、入学者は360名を大幅に超え、442名を迎えることになった。埼玉大への内部進学者は24名であった。 ・全館にWiFi環境が整った。若干の不具合があったが、早急に対応している。コースの大幅な変更に伴う教育課程も完成し、来年度に向けて準備が整った。 | B | 新しい入試制度の理解をさらに広め、受験生の確保に努める。 ・21世紀型教育機構の加盟校の宣伝普及に努め、他校との差別化をより一層深め、学校の特色化を推進する。 ・SSS、G-CATなどの新しい取組を円滑に運営する。 ・タブレット導入に伴う各教科における使用方法・目的・方針などの課題を解決する。 ・高大連携をさらに深め、埼玉工業大学への進学者を増加させる。 | ・WiFi環境が整ったので、新入生だけでなく、在校生のタブレット使用は考えているのか。また、共有アプリをさらに効果的に利用できるように指導していただきたい。 ・21世紀型教育機構に加入したとのことだが、教育効果がさらに向上するように還元していただきたい。 ・スクールバスの送迎があり、しかもバス代は徴収していない。非常に助かっている。 ・埼玉工業大学への内部進学者がさらに増加するように工夫していただきたい。 |
| 2 | 特別進学系・総合進学系・スポーツ系の3つの系統から成る指導の総決算および、現在進行中の本校教育改革の正しい理解と課題の解決を図ることが必要である。 生徒一人一人の学力の向上を図る。生徒が自己実現に向かい、意欲的な学習に取り組めるような系統的な指導が必要である。 | ・社会の変化に適切に対応した教育内容の実施。 ・国公立大学への進学実績30名以上の達成。 ・4年制大学への現役合格率80%台の継続。 | ・担任と教科担任が更に連携することにより指導力の向上を図る。 ・成績不振者への支援対策を充実させる。 ・校内研修の充実を図る。 ・本校のグローバル教育を進める。 ・教育環境の充実を図る。 | ・適切に宿題を課すことにより、生徒の自主的な学習姿勢の育成を図る。継続的な家庭学習が行われているか。 ・「分かりやすい授業」と「基礎学力の定着」を図るための教育が行われているか。 ・コミュニケーション能力を育成するための指導が適切に行われているか。 ・研修の成果が生徒に還元できたか。 ・大学入試共通試験等に対応できる準備(校内改革)が順調に行われているか。 | ・他の私立高校との違いを明確に打ち出すための新しい事業SSS、G-CAT、キックオフキャンプの計画が順調に行なわれている。新大学入試制度に対応できる教育環境も整った。 ・この3月の卒業生は314名と極端に少なかったこともあり、前年度の実績を下回ったが4年制大学の進学率は78%であった。 ・運動部、文化部とも部活動は輝かしい成果を収めた。6クラブが全国大会、9クラブが関東大会に出場した。 ・3年目を迎えた海外研修も無事に終了した。姉妹校締結に向けての土台づくりができた。 ・「仕事の力」事業に参加し、プレゼンテーション能力などこれから求められる力を身に付けることができた。 ・体系的な進路指導(進路マップ)により、生徒の進路設計の確立に積極的に努めた。 | A | ・国公立大学、GMARCHの合格者増を目指す進路指導の充実。 ・新しい教育において、効率的で中身の濃い教育活動ができるような取組の工夫を凝らす。 ・海外研修とG-CATとの関係を明確にし、本校グローバル教育をさらに発展させる。 ・次年度はPBL(AL)、ICT教育などの実践が評価される年である。SHIP推進委員会を軸に本校の新しい教育を浸透させる。 ・将棋部を筆頭に文化部の活躍が目立った年であった。次年度はさらに多くの部が活躍できるような支援が必要である。 | ・生徒アンケートの学習指導における評価、特に2学年の生徒の満足度が気になる。対策をお願いしたい。 ・学校公開で授業を参観させてもらったが、教員の取り組み方・姿勢に温度差を感じる。さらに興味・関心が持てるよう工夫していただきたい。 ・大会の関係で同じ曜日の同じ授業がつぶれてしまう。公欠のケアを充実して欲しい。 ・先生方の学習・授業に対する満足度が低いのが気になるが、説明で教員はより高い目標を掲げているので、と説明を受け少し安心した。 ・勉強することの大切さは、本人は自覚している。先生方には勉強するきっかけ作り、良いところは褒めてやるなどお願いしたい。最近の生徒は新聞・本などをあまり読んでいないように感じる。誤字・脱字を防ぎ、作文能力を向上させるためにも国語の力を身に付けてさせてほしい。テストでは、間違いの過程を突き詰めて指導して欲しい。 |
| 3 | ・浄土宗門校としての特色を生かし、仏教を通じて日本の伝統を踏まえた教育を実践している。本年度、全国の宗門校が集まり本校で行われる宗教情操教育研修会を成功させることが課題である。 ・生徒指導体制は確立されており、生徒は校則を遵守し規則正しい生活をおくっている。また、学習・部活動・学校行事に意欲的に取り組んでいる。自己肯定感を育むことと同時に自ら考え、自ら行動できる能力を育成することが必要である。 | ・基礎教養として茶道や華道等を学び、情操の涵養が図られている。 ・社会科の学習においては、時代ごとに宗教が果たした役割を理解させながらの学び。 | ・校訓である「選択」と「専修」に基づく人間形成が実現できているか、更に一人一人の適性に合った人間形成が行なわれているかに着目する。 ・日本人が知っておく習慣や伝統行事について、基本的な知識を身に付けられたか日々検証していく。 | ・宗教情操教育研修会が無事に終了することができたか。 ・宗教行事(精霊会など)を学校行事に組み込み体験させ、一般化した仏教用語や仏教起源の習慣を学んで宗教(仏教)が日本文化形成への係わりと果たした役割を理解しているか。 ・宗教教育においては、尊ぶべきものや守るべきものを学んで尊厳を持って生きることを学ぶ。 ・浄土宗門校の特色を生かした取り組みで、PTA、地域との連携を深めることができたか。 | ・建学の精神を具現化するために、法然上人の生き方を学ぶとともに自主自律、協調融合、報恩感謝の精神の体得に努めた。 ・本校が幹事校である宗教情操教育研修会(全国大会)は大成功を収めることができた。来賓・参加者からの評価は非常に高かった。 ・茶道、華道の授業を通して、反省と感謝の気持ちを持たせることができた。同時に日本の伝統文化を大切にすることを養うことができた。 | A | ・建学の精神の具現化を進める。過去の偉人伝を通して、その業績や精神を理解しながら自己の心の在り方を比較し心を強化させる。 ・人生の指針となる授業を実施するために、更なる研鑽を図り、所期の目標を達成できるように邁進する。 ・生徒一人一人の心が豊かになるよう、さらに指導方法を研鑽する。 | ・制服は学校の鏡だからきちんとしていなければならない。本校は厳しく指導していただいている。このまま続けて指導していただきたい。 ・華道・茶道の授業は心の教育の充実という意味においても素晴らしい。保護者の支部行事でも写経・写仏等、真剣にやらせていただいた。 ・今社会に求められている力は学習、スポーツだけでなく、「人間力」である。宗教教育はとて重要である。口先だけでは人はついて来ない。人柄が大切である。宗教を絡めた教育を自信を持って指導していただきたい。 |
| 4 | ・「学校は安全な場所であればならない。」体制は概ね整っている。さらにどのようなリスクに対しても適切な対応ができるように取り組むことが重要である。 ・いじめの根絶や不登校への対応は適切な指導が行われている。事件・事故を未然に防ぐため分掌間の連携や外部機関との連携を強化することが必要である。 | ・健康と安全に関する対応やカウンセリングなどの支援体制の充実。 ・学校事故への対応並びに自然災害発生に備えた訓練などの推進。 | ・常に生徒の状況に注意するとともに教職員間の情報共有と連携により協力体制を整える。 ・正智ウェブの活用が適切に行われたか。 ・校内防災マニュアルの作成(改訂)及び防災訓練が行われたか。 ・警察や消防と連携するとともに、AEDの利用に関しては生徒も扱えるように練習する。 ・校内環境美化を推進し、災害時における障害物を撤去する。 | ・安全点検は適切に行われているか。また、危機管理意識の向上が図られているか。 ・正智ウェブの活用が適切に行われたか。 ・校内防災マニュアルの作成(改訂)及び防災訓練が行われたか。 ・自然災害等における緊急対応ができたか。 | ・教育相談の支援を必要とする生徒の情報共有及びカウンセリングは十分に対応できた。 ・様々な状況下で起こる自然災害にも応用できる「地震防災マニュアル」が完成した。これにより、最悪時に行動できる危機管理意識を植え付けることができた。 ・ネットトラブルに巻き込まれないように、生徒、保護者対象の講演会を開催した。大きなネットトラブルに巻き込まれた生徒はいなかった。 | B | ・ネットトラブル事故ゼロを目指し、さらに事故防止教育の啓発に努める。 ・情報セキュリティポリシーを作成し、学校共有の財産を守る。 ・社会及び教育環境の変化の中で力強く生き抜く人間を育成する。そのための教育環境を整える。 | ・臨床心理士によるカウンセリングは悩みを抱える生徒だけでなく、保護者に対しても対応してくれるので好評である。 ・災害時における防災マニュアルの改訂また、個人情報保護の研修も行われているとのことである。ネットトラブル等に巻き込まれないように注意していきたい。 ・スクールバスの経路は、安全面を考慮して、あえて細い道を通らないように検討して欲しい。 ・小さいいじめ等に対しても学校は適切な指導をしている。 |

*安全点検は毎月、校舎内外すべての施設について担当者を決め詳細に点検・修理を実施。